

私の先生

元NHK交響楽団打楽器奏者 小林 ^{よしたか}美隆 先生

理工学部理学系 裕 文夫 教授



「私の“教え方”の先生」

大学1年の頃、オーケストラの先輩に連れられ小太鼓のバチを持って、杉並のお宅に初めてレッスンに伺うと、太鼓ではなく三脚の上部につけられた直径20cm、厚さ3cmほどの木の円板が置いてあり、しかもその中央部は、長年たたかれて逆円錐状にえぐられている。僕の番になって、「はい、一つ打ちをやってみて」と言われ、右手だけで「タン、タン、タン、…」と段々早くそしてまた段々遅くしてそのえぐれた所を打つのだが、バチはあっちに跳ねたりこっちに跳ねたりで汗がにじんでくる。「なるべく同じ音が揃うように」と言われても力が入るばかりで、あっという間にレッスンが終わった。

その後、2週間に1回位通っていると「力が抜けてきましたね」とおっしゃるように、徐々に肘の力、肩の力が抜けているという感覚が分かるようになってと同時に、音の粒も揃ってくるのを「そうっ」と満面の笑みをたたえてほめて下さるのが大変嬉しかった。しかし余り練習しないで行くとそれが音で簡単にばれてしまい、決して叱ることはされないのだが、「そうっ」とほめる言葉に勢いが無いのをこちらも感づいて、次回はちゃんと練習して来ようという気になる、という繰り返しだった。

カラヤンが初めて日本に来てN響を指揮した時、ティンパニを担当されていた小林先生をベルリンフィルに来ないかと誘って断られ、その後N響を定

年で退職されるときにもぜひ来いと誘ったが、先生は武蔵野音大でお弟子さん達を教える道を選ばれた、という話はい最近、人から聞いて初めて知ったほどで、当時先生が僕に自慢されたのは、お孫さんを自分が抱くとすぐ泣き止むんです、こちらの体の力が抜けているのが伝わるんです、と嬉しそうにおっしゃったときだけであった。

僕自身、基礎教育の場面で、分数や文字式の計算もままならない学生に一对一で相手をし、その学生がある時ふっと目を輝かせたと思うと、その後はすらすらできるようになって大学院に進んだ、という体験は、思い出すたびにこちらも嬉しくなる。小林先生は巧まずして、人への教え方を僕に教えて下さっていたのだった。

今年8月頃、たまたま小林先生は今どうされているかとパソコンで見っていたら、お孫さんのブログで2年ほど前にお亡くなりになったと知り、その日は同僚に先生の数々の思い出話を語ったのだが、つい1週間前に広報から「私の先生」という題で文章をという依頼を受けた瞬間、小林先生のことだ、とお引き受けした。

天国にいらっしゃる先生に感謝の思いとともにこの拙い文章を捧げる。

親睦会 登山ハイキング部 紹介

「トレッキングでリフレッシュ！」

部長 : 渡邊 善和 (工学部人間科学系列)

部員 : 21名 (H25.11.20現在)

登山ハイキング部は、親睦会ができた当初からの歴史があります。活動としては、毎年、春・秋に1、2回のハイキングを、夏は合宿として日帰りでは行くことのできない地域で、かつ安全に登れて高山植物がきれいな山々を選んで山小屋泊りの登山を行なっています。今年の日帰りで3月に伊豆の天城山、6月に尾瀬、8月には2泊3日の行程で、北アルプスの針ノ木岳に登りました。昨年は中央アルプス(木曾駒ヶ岳と空木岳)、一昨年は白山に登り、雪渓や高山植物の花々を楽しみました。

昔は若い人たちが皆、山登りに出かけたのですが、その後しばらくは我が登山ハイキング部も



【伊豆 天城山にて】

若い人があまり入部されない時代がありました。

しかしながら最近「山ガール」と呼ばれる人たちの増加を反映してか、若い部員が参加する気配があります。ご興味のある方は是非幹事の石平(内線72-6350:ishihira@jim.dendai.ac.jp)までご一報ください。

多くの方々の参加をお待ちしています。